

〈協同のひろば〉

国際連合設立50周年記念・市民賞

『われら人間：50のコミュニティ賞』生活クラブ生協への授与、決まる

生活クラブ生協（折戸進彦連合会会長、本部・東京都世田谷区、参加組合18単協・組合員23万人）は、国際連合50周年を記念して全世界的に模範的な活動をしている50の市民グループに授与される『われら人間：50のコミュニティ賞』（“We the Peoples : 50 Communities Awards”）の受賞者の1つに選ばれました。スポンサーは、非営利団体のN G Oで国連広報局と密接に連携して活動している『国連の友』（Friends of the United Nations）です。“われら人間：50のコミュニティ賞”は、国際連合が重要であるとする10の分野において選ばれたもので、市民のイニシアティブが成功を取っており、国際社会の発展の模範となる団体へ授与されるものです。

国連が重視する10の分野というのは、1) 平和と安全への貢献、2) 環境保護と持続可能な発展、3) 経済と社会の発展、4) 人権の擁護、5) 人道的社会福祉事業、6) 教育と衛生への貢献、7) 女性と子供への貢献、8) 文化的発展、9) 食料農業漁業林業への貢献、10) 人道主義的活動、です。

生活クラブが選ばれたのは、10の分野のうちの、2)の『環境保護と持続可能な発展への貢献』という分野です。環境の保護と保全、次の世代のための資源管理、持続可能な観光事業への貢献などが選考基準となっています。この分野の生活クラブ以外の受賞団体は、1) 森林の伐採に反対して国の自然資源財政に大きな影響を与えたインドの女たちの「チブコ運動」、2) 荒廃しつつある文化的自然環境の保全と復興に貢献している独立国家共同体（旧ソ連）の「エコロジカル社会同盟」3) 伝統的な生活様式と環境保護を両立させるために取組み、文化遺産と伝統的知識を生かすことに成功したカナダのウオールポール・アイランド第1部族共同体、4) 生態系からの産物に依存してきた人々の生活様式と観光産業の両立を追及し

これを成功させたアメリカ、インディアンの「ウイリパ同盟」の4団体、グループです。

「国連の友」は過去2年以上にわたって、示唆に富んだ教訓をもち、共通の連帯意識を有していて、それを事例でしめしているグループの探索と選考を精力的に行ってきました。360以上の団体、グループが全世界のあらゆる地域からノミネートされました。そして国連の行動計画の課題に応えつつ、異なるアプローチをしている、広範な代表からなる国際顧問団委員会によって50の団体・グループが選ばれたものです。

生活クラブ連合会へは、国際協同組合同盟（ICA）と日本生協連（JCCU）を経由して「最終選考で選ばれたが受賞するか否か？」問い合わせがあり、当連合会は理事会において受賞することを決め、その旨返事しました。生活クラブとしては、この名誉ある受賞は、直接的には生活クラブ生協の組合員及び連帯関係にある生産者質に与えられたものであるが、目先の利害や競争に目を奪われることなく環境保護と持続可能な発展のために地道な努力を重ねている生協、農協、漁協、森林組合、労働者協同組合、ワーカーズ・コレクティブなど全ての日本の協同組合人に与えられたものであると受け止めています。

生活クラブへは、今回の通知のかなり以前より複数の機関等から、環境問題にどの様にアプローチしているか？また「もう1つのノーベル賞」とも呼ばれている1989年に受賞した『正しい暮らしの賞』（Right livelihood Award）の趣旨内容は？生活クラブの思想、政策、近況などは？等の問い合わせがありました。

またGATTに対しては、ウルグアイ・ラウンドにおける農業・食料問題への提言を行い、国際協同組合同盟（ICA）においては、協同組合の果たすべき社会的役割と基本的価値についての提

言と討論を国際的レベルで積極的にを行ってきました。単に意見を述べるだけでなく実証的データを提供し、さらに組合員と農業・食料生産者が、日々の生活と労働の実践を通じて、その在り方の変革をすすめる努力を重ねてきました。また近年は、食料の自給と肉食の充実、消費だけでなく生産にも責任をもち能動的に参画する生活者としての視点から、「食の専門生協」としての自己確立を進めて来ました。

生活クラブに対する主な受賞理由としては、次のような点があげられたと伝えられています。『消費的な生活スタイルをやめる試みを次々と実行していること、環境保護に力を入れて健康や環境を害する品物の供給を拒否していること、自主管理された生活スタイルを創造してきたこと、消費者が家庭生活のあり方の変革を通じて自然と調和した社会を創造できることを実証したこと』

国連友の会の理事長であり、今回の行事の実行委員長であるノーラーケイト・ソイモア博士は、『我々は成功裏に推薦者を受け取ったが、それにはヴァチカンからの推薦や、アッチカ刑務所の収容者グループが推薦されていることに見られるように非常に広範にわたっていた』と語っています。

その選ばれた団体・グループの範囲は、小さな村から社会運動に至る広範なものです。受賞者の中には、効率的エネルギー技術の協同的機構であるカナダ・ケベックの先住民居留地の Ouje Bougoumouno や、貧困の罅を陥らないように仕組んでいるスコットランド、Dundee の Whitfield のような地理的な共同体がふくまれています。またサラエボの Kasevo 病院は、人道主義的な援助の分野において選ばれ、フィリピン全国平和会議は平和へのプロセスにおいて広範囲にわたる市民の参加によるデモンストレーションの遂行により選ばれました。ブラジル人飢餓運動は、飢えている人々への給食活動へ数百万人の人々を動員しました。スペインのモンドラゴン協同組合グループは、雇用者自身による協同組合が経済的な発展を達成できることを示して、大きなインパクトを

与えました。ボリビアの Sarantanani Program は、ストリート・チルドレンが彼等自身、自助の精神で立ち上がるような運動で成果を上げました。これらのリストは大変長大なものですが、すべて我々を鼓舞激励してくれる内容です。

50の受賞者の代表は、9月にニューヨークにおいて行われる研究集会と授賞式に参加致します。そこでは参加者は、お互いの洞察を分かち合い、国連にとって重要であると思われる各分野にわたって、共感をもつての検討が行われます。研究集会においては、国連が次なる50年に入るに当たって、未だ活用されていない人的、物的資源をより有効に活用する事ができるような市民のイニシアチブ、というテーマに沿って行われます。

研究集会と授賞式はニューヨークのセント・ジョン・デイバイン大聖堂で行われ、参加者はエチソン・ホテルに宿泊します。日程は、9月22日（金）は、国連本部見學と略式レセプションと各グループの紹介と研究集会の打合せ。23日（土）は、研究集会。24日（日）は、国連総会議長の公開演説、受賞者グループ全体会議、及び受賞式典と祝賀宴会です。

国連友の会のノーラーケイト・ソイモア博士は『表彰された50のコミュニティの成果は、今後さらに2年間にわたって研究・記録され、適切な国連機関や様々なプログラムに乗せてゆく予定である。交流と普及を継続させ、21世紀に入っても世界の市民たちがこの50のコミュニティの実践的教訓を学び、人々を鼓舞し生かして行けるように活動する』と語っています。

生活クラブ連合会では、丸山茂樹（連合会国際担当・コーディネーター）、上野純子（東京・組合員）、石井明（神奈川・職員）、小川泰子（神奈川・ワーカーズ・コレクティブ連合会）、伊藤雄司（生産者団体「親生会」）、増永朋子（生活と自治）の6名からなる代表団を、9月21日から28日までアメリカに派遣し、授賞式への参加と世界の市民運動団体との交流活動に当たらせてます。